

平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(いなべ市)の概要 【速報版】

8月6日(水)に「青川峡キャンプパーク かもしかフィールド 学童野外活動センター」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、農産品のブランド化や6次産業化に取り組んでいる女性農業者と関係者の皆さん8名に、いなべ市長を加え、活動内容や課題、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

(活動紹介)

6次産業化等の成果品である農産品(試食品)の提供と併せて、活動内容を紹介していただきました。

○畜産業をしており、改良を重ねながら、やっと「三重いなべ牛」というブランドができた。これからは、松阪牛、伊賀牛と並んで三重の三大ブランドとして売っていききたい。安全・安心に自信を持っている。

○息子3人と養豚業をしており、「さくらポーク」ブランドとして、生産、精肉、加工品の販売等を行っている。脂が甘いのが特徴である。

○採卵養鶏をしており、いなべ市産のお米を含む厳選した自家配合飼料を与え、安全・安心な卵の生産、販売を行っている。餌にお米を入れることによる黄身の色の薄さや、生卵の白身の盛り上がりや弾力が特徴である。

○大学を卒業後、就農してまだ3年ちょっとしか経っていないが、父親の指導の下、水田農業をしている。お米の味には自信がある。

○水田農業といちごの生産、販売を行っている。いちごについては、有機肥料にこだわり、章姫(あきひめ)と紅乙女(べにおとめ)の生産を行っている。

○石樽茶の生産と販売をしているが、時代の流れとともに、飲むお茶だけではやって

いけないので、かぶせ茶の粉末を練りこんだバームクーヘンやお風呂に入れるティーバッグの販売などを行っている。

- いなべ市内で女性初の農業委員として働いており、「いなべを食す」ということで、レストランで地元の農産品が使われるよう宣伝に力を入れている。
- JAみえきたの女性部長をしている。昨年4月にくわな、ながしま、いなべ、三重四日市の4JAが合併したことから、合併してよかったと皆さんにいただけるよう、健全な食と農を目指して活動を行っている。

Q. 農業の魅力や楽しさ、農業をやってきて良かったことについてお聞きしたい。

- 子ども3人が跡を継いでくれたことが、私たちがやってきたことの結果で、良かったことだと考えている。休みのない生活を続けてきたので、私たちの代で農業をやめようと思っていたが、3人の息子がサラリーマンをやめて帰ってきたため、今は会社組織にして、休暇もとれるようになった。
- お客さんから「この卵いい」と褒めていただいて、「この卵でなければあかん」といっていただくことが、私の誇りである。
- 長男が祖父から仕事を教えてもらいながら、茶農家の跡を継いでくれている。私と長男の嫁は販売を行っている。これからも苦労はすると思うが、苦労しながら私たちが受け継いできた形を守っていってくれると思う。
- 大学進学するとき、絶対に農業はしないと家を出たが、就職活動中に付き合っていた彼氏が、農業を継ぎたいといったため、一緒に帰って結婚した。最初、農業は疲れるため嫌だったが、やっているうちにだんだん楽しくなってきた。農業はやれば、その分だけ農産物が返してくれるため、達成感が得やすいところが魅力ではないかと考えている。
- 息子が家を継いでくれて、今は作るだけではなく、いちご狩りなど売る方にも力を入れている。若い者がいろいろと考えてくれているので、軌道に乗りかけてきた。
- 高いランクの牛肉を作るように勉強するとともに、地元の農家の糞を餌に使うなど安全・安心を一番に考えることで、おいしい牛肉を作っているという自信がある。

Q. 生産や販売等をする中で課題になっていることをお聞きしたい。

- 担い手不足は、地域の魅力の問題である。近所でも跡取りがいない家が多くあり、耕作放棄地が増えてきた。市外から来る人を含め、補助金をあてにしないやる気のある人をみんなで応援していく必要がある。
- 耕作放棄地は大きな問題であることから、JAでは、組合の皆さんから土地をお借りして、集落営農のような形で会社を立ち上げたところであり、これから少しずつでも動かしていきたい。
- 県では6次産業化を進めているが、既存の販売店から、生産者は生産だけしていればいいという反発がある。
- いなべ市は獣害が多く、他の地域と比べ獣害対策に労力をかける必要があるため、何とかしてほしい。
(市長の発言)
- 品質の高い農産物を、正当な価格でマーケットに出せる仕組みが必要である。いな

へのブランドを市内で販売するには限界があるため、県と連携してマーケットを広げていく必要がある。

【知事の発言】

- 国の政策であるが、三重県でも、農地等を貸したい農家から農地等を預かり、規模拡大や経営の効率化を進めている担い手農家へ農地の利用の集積・集約化を進めるために「農地中間管理機構」を立ち上げたところである。やる気のある担い手農家が育つよう皆さんでがんばりましょう。
- 6次産業化に対する反発もあると思うが、どんな政策でも全員が賛成ということはありません。ご理解いただけるよう説明する努力が必要であると考えている。
- 獣害対策については、県として4年間で特に注力する「選択・集中プログラム」に位置付けており、地元の猟友会と連携して獣害に強い集落作りに取り組むとともに、企業と連携してITを使った捕獲技術の開発などに取り組んでいる。その結果、被害額は下がってきているが、もっと下げていく必要があるため、今後とも引き続き一生懸命がんばりたい。
- 市町が発言された販路拡大についても、県の仕事としてがんばってやっていきたい。
- 三重県の中にこんなにおいしいものがあるんだと、改めて知ることができた。また、元気な女性の皆さんに、いなべの食の魅力を語っていただき、元気をもらうことができた。



女性農業関係者の皆さんは、三重県農村女性アドバイザーとして6次産業化の研修会等を開催するとともに、農産品（牛肉、豚肉、鶏卵、茶等）のブランド化、6次産業化等に取り組む女性農業者に、農業委員及びJA関係者を加えた皆さんです。